

一念十念に足りぬべし

——法然上人——

暮らし イコール お念仏



俳人井原西鶴は、どれだけ多くの句をよめるかを競争する矢数俳諧^{やかずはいかい}で、一昼夜に、二万三千五百句という記録を作ったという。大変なことだ。

私たちの宗祖法然上人も一日に六万遍のお念仏を唱えたという。これを単純に計算すると、一時間に二五〇〇回、一分間に四十一回余のお念仏を唱えたことになる。これでは食事もしていられない。ねむってもいられない。

お念仏は数の多い少ないではない。仏様を拝むその私の心が大切なのです。

上人の毎日の生活は、四六時中、吸う息も吐く息も全ての行いが、仏様の願いになった生活であつたのです。

これがお念仏の生活なのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猊下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜市誓願寺檀家 後藤幾枝様に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

有^{うもく}目^{ともがら}の徒^{にちもち} みな日^{にちもち}没^{もち}をみよ

— 観無量寿經 —

夕陽^{うる}なお美^{うる}わし



陽が沈む。一日が終わる。

「日暮れ」はまだいい。陽はまた昇るから。人生の「暮れ」をどう迎えて、どう過ごすか。

日すでに暮れて、なほ烟霞^{えんか}絢爛^{けんらん}たり。

— 洪自誠・菜根譚 —

日はすでに暮れても、夕焼けはなお美しく西空を染め、時期はまさに熟していちだんと芳香を放つ。自然は事の終わりにこそ光彩をそえる。人間もまた晩年にあつてはその人生の暮れを美しく飾らねばならぬ、ということか。

人生の黄昏^{なをがれ}にさしかかって「夕陽^うなお美^うわし」といえるために、常に青年の心を失わず、自策自励して、燃えつづけていたい。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猗下のご染筆です。前号の色紙は名古屋市藤江寺檀家明石太郎様に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

このたびしょうじ
此度生死の苦海を出でずんば

いか
未来何んが菩提の彼岸に到らん

西山上人『五段鈔』



今聞こう

人生はよく旅に譬えられます。歌人若山
牧水は、

幾山河こえさりゆかば さびしさの
はてなん国ぞ きょうも旅行く

と歌いました。人生と言う旅は、雨の日も、
風の日も、つらいことも、悲しいことも多
多あります。そんないくつもの山河を越え
ても、なお、もの寂しさは募るばかりです。
それでも、この先、いかなる事があるうと
も、歩んで行かなければなりません。

あなたは「私は若いから、もつと年老いて
から、聞けばよい。」と考えていませんか。
仏法は死ぬ準備のために聞くものではありません。
私たちは一日もはやくお念仏と巡
り会いたいものです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂現下のご染筆です。前号の色紙は、京都市内在住 藤田良子様に当選いたしました。
ご希望の方は、ガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月未抽籤で一名に進呈。

『自ら信じ人をして信じしむるは』

難かたきがなかに転うたた更さらに難かたし』

善導大師『往生礼讃』



信念をもつて語り続ける

流行のインチキ商法には、お客をだますための手口を綴つづったマニュアルがあるそうです。

彼等インチキ商売人は、そのマニュアルに従って、甘い言葉やおどし、ウソの数々を並べるのです。だけど、自分が信じてもないことを他人に信じさせるのは、実は難しいものではないでしょうか？

仏教を信じている私たちが、自らの信念を懸命に語っても、信じていただけるようにするのはなかなか難しいことです。それでも飽きることなく、諦あきらめることなく、この幸福への招待状をお配りし続けているのです。

親鸞しんらん聖人は、お師匠さまの法然上人のお言葉がたとえウソであって、地獄におちたって悔くいることはないという、強い信念と信頼をもっておられたのです。私たちもこの信念と信頼を持ち続けたいものです。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長丹羽観堂祝下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜県羽島市在住 後藤武子様に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

赤色には赤光あり

白色には白光あり

(阿弥陀經)

新生



禅林寺



ひとりひとりが光っている

子どもが、学校からもらってきたクラスの写真を見て驚いた。

ひとりひとりの子どもたちに、ひとりひとりの光があり、風光がある。いちばん端のに出ているのは、服装と姿勢である。

勿論ひとりひとりの子どもたちの顔が異なるのはあたりまえだけれど、私が驚いたのは、顔の輝きなのだ。その輝きにも、すべて違った光がある。しかし、二、三の子どもには、そこにあたかもスポットがあたたように、ひかり輝いている。

なぜだろう。子どもたちの顔の輝きや、姿勢や服装にまで、家庭のすがたが生きている。

あなたの子どもさんに、親の信仰の相が伝わっていますか。

総本山 永観堂 禅林寺

『凡夫は善根薄少にして』
 ぼんぶ ぜんこんはくしょう

三界を流転して火宅を出でず』
 さんがい るてん かたく い

善導大師『往生礼讃』

出られない私

長田恒雄さんの詩『巣』「自分でつくった
 巣から／蜘蛛みずからも出られない／自分の
 張った／愛着の巣から／私も 出られない／
 その愛着と執着を／断ち切るとき／苦悩は消
 えるのだが さて 私は」

苦悩の原因の多くは、愛着であり、執着で
 あることを、私たちは分かっています。なの
 にその執着や愛着を捨てることができない。
 いや捨てたつもりでいても、完全には捨て
 きれないのが私たちです。肌につく垢の
 ように、拭っても洗っても、こころの中に湧い
 てくる、この忌まわしい愛着や執着。そんな
 煩惱と同居しているのが人間だったのです。
 その厄介な同居者を、きれいに拭いさつて、
 助けとつてくださる存在が阿弥陀さまであつ
 たという大発見が、私たちの苦悩を消してい
 くのです。

禅林正堂



総本山 永観堂 禅林寺

おこたりに ふける者は

生命ありとも いのち

すでに死せるなり

―法 句 経―

「人生は 丹精」

老人のための座席をシルバーシートと呼び、高齢者をシルバーエイジといいます。熟年世代を銀であらわすのは、まことに気のきいた言いかただと思えます。金でもなく、銅でもなく、銀というものは、すこし磨くのをおこたると、すぐに黒くさびついてしまうからです。

磨かれた銀は、「いぶし銀」の光沢こうたつを放つものですが、黒ずんだ銀は老醜らうしうを思わせます。

「男は自分でそう感じた時、老人であり女は他人からそう見られた時、年寄りである」という言葉があります。

精進しょうじんとは、たゆまず心と体を磨くこと。いぶし銀のように、きらめく銀齡シルバーエイジであれ。

総本山 永観堂 禅林寺

禅林寺法主 饒々にょうにょう



右の色紙は管長丹羽観堂猗下のご染筆です。前号の色紙は、三重県三重郡菰野町 木村 正様に当選決定いたしました。ご希望の方は、ガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。〆切毎月末抽籤で一名に進呈。

汝自らまさに知るべし

— 観無量寿經 —



時に反省

私たちは地図があれば、未知な場所へも行くことが出来ます。しかし、それが、そんなに遠くではなく、充分に見知った近くでも、時として、方向が分からなくなることがあります。例えば、地下街から地上へ上がった時、逆に、地下街へ足を踏み入れた時、また、夜にタクシーを降りたときなどそんな経験はありませんか。

どんな立派な詳しい地図を持っていても、自分のいる場所、現在地を間違えたら、目的の地へはなかなか到着出来ません。

私たちの人生も、地図上の現在地を領解していなければ、同様ではないでしょうか。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猥下のご染筆です。前号の色紙は、北海道美唄市東三条 八重樫利雄様に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

口は是れ弥陀出入の口なり

— 五 段 鈔 —



口は食べるためだけの
ものではありません

成人病が気になる年令になってしまった。
この病の原因の多くは、栄養もカロリーも
考えない暴飲暴食がもとであるようだ。

そしてその悪い習慣の積み重ねで病気に
なる。病にならぬうちによい習慣を身に付
けたいものである。

信仰だつて同じこと。つね日ごろ口にお
念仏を唱える習慣をつけておかずに、臨終
のときお念仏を申せばよいと思つていても
いざというときに出てくるでしようか。

朝夕、お念仏を申す習慣を早くつけてお
きたいものです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂現下のご染筆です。前号の色紙は、香川県宇多津町在住 大島千鶴子様に当選決定しました。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

和顔愛語

無量寿經

少欲知足

遺教經



美人の条件

お多福の顔は誰もが知っている。しかし、お多福さんが、「五徳の美人」だとはちよつとご存じないのでは。「美人だなんて——ぷっ」と吹き出されたのではありませんか。失礼ですよ。あんなにふくよかで、穏やかで、やさしいお顔はないのです。昔から日本の男性は、お多福さんのような女性を、母とし妻とし嫁と慕ってきたもののなのです。

五徳とは、ひかえめな口、まん丸い切れ長の眼、大きな垂れるほどの耳、ふくよかな頬そして低い鼻。

どれも今の時勢には合っていないですね。どうしてでしょう。かしましくものを言い、オカミのように目が吊り上り、子どもたちの心の言葉に耳を閉じ、欲に皮がつっぱり、高学識に鼻が高くなっているからではないでしょうか。でもお多福さんの姿はどこか、仏さまに似ていませんか。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猊下のご染筆です。前号の色紙は、加古川市龍泉寺檀徒 影山八郎様に決定いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

ハンドルを握れば 途端 鬼になる

おのおの こころ こころ よ
 各々の意を快くせんと欲い

心にまかせて自ら恣 ほしい ままにす

『無量寿経』



街角にこんな張り紙があった。

「ハンドルを握れば、途端、鬼になる」

じつは私は鬼です。そのままでは人間

界には住めません。

だから、鬼だと思われないうちに、人間の仮面をつけて、車に乗るときも法規を守り、おまわりさんがいようとまいとスピードも出さず、大好きなお酒も飲まないで、ドライブを楽しんでおります。そして、ときどき自分が鬼であることを忘れることがあります。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂現下のご染筆です。前号の色紙は、大分県臼杵市在住 北山直方様に決定いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

拙い哉かなこのたびしょうじ此度生死くかいの苦界いを出いでずんば未来何みらいいず
 れの時ときか菩提ぼだいの彼岸ひがんに到いたらん 速すみかに三界六さんがいりく
 道どうを厭いとて西方常楽さいほうじやうらくの門もんに入いるべし

西山上人御法話 『厭穢欣淨』



禪林北堂



ムダ話に時を過ごすな

電話。それは現代社会で暮らしていくにはなくてはならない便利なものです。その一方で、電話は、私達の暮らしを、慌ただしく、忙しいものにしてしまいました。この便利な電話で、私達はいったい何を話し、何を伝えあっているのでしょうか？

人の噂うわさと、損得の話ばかり。人として生きていくのに、本当に大切なことを伝えあっていることは稀まれなことに気がきます。

この世の名誉や利害、煩雑はんざつな柵しがらみをすっぱりと捨てて、永遠の幸せを願ひ求めるといふ、人としての真実の生き方へとダイアルをかけ直しましょう。そして、それができるのは、今を措あいて別の機会はないのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猗下のご染筆です。前号の色紙は、姫路市大塩町在住 竹内政一様に決定いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。